

 公開講演会 (平成17年5月21日開催)

「東アジアの古代苑地」

7・8世紀代の東アジア諸国の苑池遺跡を概観しました。唐では、生産や軍事などの機能をも担う広大な苑にともなう苑池と、宮内にあり皇帝の私的な生活空間で、政治、儀式、信仰、遊興等の機能をもった比較的中・小型の苑の苑池の2種が組み合い、皇帝の権力を維持し、顕示する仕組みとして有効に機能していました。大明宮太液池は後者の典型例で、上陽宮園林遺跡の苑池は、後者の中でも、もっぱら鑑賞や遊興に使われた、より私的空間的色彩が強いものでしょう。新羅・雁鴨池、渤海・上京龍泉府苑池、飛鳥京、平城宮苑池などでは、機能、設置位置、付施設などに、唐の強い影響を看取できます。なお、日本の苑池は、天武・持統朝に唐の影響下に萌芽し、奈良時代に確立したものと考えられます。

(飛鳥資料館 加藤 真二)